週刊新聞　直言

SOCIALISM＝ソーシアリズム＝社會主義

本紙は日本社會主義の中央機關也!!!

（平民社　電話本局三一六二番）

●借地人諸君に告ぐ

石川生

聞く、近時都下及び各地方に於て殆ど總ての地主は戰時稅の增徵を名として地代の値上を借地人に迫り、借地人等は其困窮の情を訴へて之を拒絕せんとし、至る所に其紛紜を極め居れりと。

蓋し戰時稅增徵の結果として、地主の負擔に重きを加へしは事實なり、而して多くの地主が此期に際して地代の値上を爲さんとする、一概に橫暴なりといふ可らず、然れども之が爲に小弱なる借地人諸君が、言ふ可らざる困窮に陷いるは亦事實にして、吾人は最も深き同情を以て諸君が拒否運動の苦衷を察せざる能はざるなり。

然れども借地人諸君、諸君は如何にして今日の苦境に陷りしや、何故に國家も社會も諸君の窮狀を傍觀して顧みざるや何故に地主は國法の保護の下に諸君を苦しむるの權能を得たるや、諸君若し今日の苦境を脫せんと欲せば、須らく先づ其本源に遡りて考究よ。

想ふに、財產の私有權を無制限に認めたる現世の諸國に於ては、法律は「人格」其ものを保護するに薄くして、寧ろ「財產」を保護するに厚きの觀あり、見よ、人は如何に心身を盡して勞働するも、始より一錢の資本、一步の土地無きものは、終生其貧苦を忍ばざる可らざるに非ずや人は如何に日夜を通して逸樂に耽るも、蓄へて多くの土地、資本を有する者は、終生彌々富んで權力を逞ふするに非ずや、されば今諸君の頭上に落下せる地代值上問題の如きは、土地の私有權を認許せる日本國法の下に於て當然來るべきの結果なり、諸君の困苦の如きは固より國家の眼中に存せざる所也、果して然らば、諸君は此國法が持來せる壓迫に對して如何に自ら救はんとするや。

諸君は固と忠良なる日本國民なり、國家が如何に諸君を窘迫すると雖ども、諸君は敢て干戈銃砲を動かし、蓆旗竹鎗を飜して暴動を企つる者に非ざるべし、然れども諸君、若し今の社會制度が不公平なることを知り、條理を逸するものなる事を明かにせば、諸君は須らく之が改革の手段を講せざる可らず、然らざれば諸君は、遂に痴愚に非ずんば即ち怯懦の人となるべければ也。

抑も土地所有權は如何にして生せしや吾人は所有權制度の果して公正なりや否やを定めんが爲めに、先づ其の源に就て少しく討究せざるを得ざるなり、乞ふ吾人をして茲に英國の社會主義者ブラッチフォード氏の言に聽かしめよ。

△扨かくの如く、少數の富豪が不當にも土地資本を占有して居るが、彼等は常に之を所有する權利があると威張つて居る。果して彼等にそんな權利があるでせうか。

△先づ土地に就て考へて見ませう。土地が私有財產となるには、奪ふ、盜む、買ふ、貰ふの四方法があります。昔の武士などが土地を得たのは、謂はゆる槍先の功名で、何の事はない强盜と同じ樣に人の土地を奪つたのです。それから今の大地主の中には、種々狡猾なる手段を以て農民を欺き、其土地を盜んだ者が澤山あります。それから其の盜んだり、奪つたりした土地を、分けて貰つた者が又澤山にあります。

△然しマアそれらは暫く置いて、金を出して土地を買取つた場合を考へて見ませう。買取つたと云へば如何にも正當らしく聞えますが、元々それを賣る權利の無い人から買取つたのだから矢張り何の役にも立たぬ。それに其代價として拂つた金が、眞に自分の働いて得た金で無いのだから、其點から考へても矢張り何の權利にもならぬ。

△元來、土地は自然の賜物で、人が拵へた物では無い。人が拵へた物で無いから人が之を私有する權利はドウしても無い。若し土地の私有する事が不正で無いとするならば、盜に空氣を私有する人があつて丁度地代を取立てる樣に、呼吸料を取立てても、矢張りそれを不正とする事は出來ぬ。（枯川兄譯、通俗社會主義の一節）

假令其土地が金錢を以て買入れたるものにして、其所有權は正當のものなりと爲すも、猶は地主は理由無き暴利を獲得しつゝあるなり、吾人は今ま實際に目擊せる一二の事例を開けり。

△或る公職に從事せる信ずべき人の言に曰く「私は昨年の末に百十四坪許りの土地を買求めましたが、買價は千二百五十六圓です、それがドウでしやう二十年前即ち明治十七年には僅かに十五圓で賣買した土地なのです」「又た其近傍に今ま十三萬圓といふ土地がありますが、それがナンデも明治十八九年頃には千三百圓かで賣買された所です何れも僅か廿年間に其價格が百倍に騰貴したのです」

△又或る同志の談に曰く「萬世橋の近所に昔から有名な尾張屋銀行といふ大銀行があるが、アの銀行がアソコの土地を買う時には一坪の代價が五厘から七厘位であつた、マルでウソの樣な話だが眞實の事だ、ソレが今では少くとも一坪廿五圓以上でおらう、地主が坐つて居て知らず〜〜ダン〜〜に富んで行くのは當然の事です」

僅か十五圓の土地は飛んで千三百圓となり、タカ〜〜七厘なりし地價は廿五圓以上となり、而して廿年前に於て僅に一千圓の土地を有せる者、一擧手一投足の勞を爲さずして今は十萬圓の富豪となる、蓋し社會は勞働の結果に依つて其の富を增し、而して富の增加するに從つて地價は彌々高まるなり、果して然らば、地價を作る者は勞働者にして、而も之に依つて利を占むる者は地主なり、嗟吁、何の所にか公平あらんや、正義あらんや。

夫れ土地は何人が造りしものにも非ず何人の爲に造りしものにも非ず、唯だ天萬民を此地上に產めり、何人も皆等しく自己の本性を盡して天地の潤澤に浴すべきなり、而して何人と雖ども之に干涉し得べきに非ざる也、往古の民謳ふて曰く「井を穿りて飮み、田を耕へして食ふ」と往古の民風、亦羨やむべきもの無しとせず、然れども吾人は今や所謂文明法治國の臣民たり、安んぞ敢て太古の民たらんと欲するを得んや。

然は諸君は如何にすべき、他あらんや、他あらんや、唯だ諸君が住居し使用する土地をして天下の公有たらしむるにあるのみ、吾人は諸君がなしつゝある對抗運動を以て無用なりとする者に非ず、否な寧ろ大いに其聲を揚げて、少くとも不當なる値上を防止するに努むべきなり、然れども諸君は思はざるべからず、諸君が今其運動によりて、一時之を防止し得たりとするも、之を一度するは之を二度するの階梯ならざる可らざるを、而して地代値上の問題は、將來頻々として諸君の頭上に來り、眞に夏時の蠅よりも煩はしきに到るべきを、されば諸君にして眞に此問題の上に安心せんと欲せば、諸君は到底土地の公有を主張する我が社會主義に來さるを得じ、而て國法の改定を國家に要求せざるを得じ、然り諸君が自ら救濟するの道は唯一のみ、唯是あるのみ。

THE CHOKUGEN.

SOLE ORGAN OF JAPANESE SOCIALIST.

Issued every Sunday.

Communications addressed to The Heiminsha, Tokyo.

Vol. II.　Tokyo, April 16th, 1905.　N. 11.

THE OSAKA HEIMINSHA.

A branch office of the HEIMINSHA was established in Osaka the largest commercial and industrial city in this country. Comrade Morichika who had been compelled to resign the Governmental office in Okayama Prefecture by reason of his being a socialist, is now managing the business of the branch office assisted by his wife. The CHOKUGEN and other socialistic literatures are always sold there. The lecturing meetings are often held there. The OSAKA HEIMINSHA would be in future the centre of the socialistic movements in the western part of this country.

A STEP OF CONCESSION.

Some eminent professors in the Imperial University are lecturing the social reforms not the radical socialism Some great authorities in the Government are suggesting the state socialism not the revolutionary socialism. Some famous writers and politicians are insisting the national charity (or the state charity) not the right of people. These are the bourgeois solutions for the social problems which are springing up under the recent development of Capitalism in this country, especially under the heavy pressure of the war. And we know very well that this is only for the fear of our true socialism, and a step of their concession to us, as the first sign of the final surrender.

FACTORIES AND LABOURERS.

It is reported that there are 8,836 factories in this country. And the labourers employed in them are counted to be 558,041 of whom 225,040 are males.

WAGES OF THE LABOURERS.

Wages of the labourers in this country are reported as follows.

Kind of labour.	Highest wages.	Lowest wages.
Carpenter.	83 sen.	40 sen.
Plasterer.	90	35
Stonemason.	100	35
Roofer.	90	45
Sawer.	66	30
Matmaker.	88	31
Bricklayer.	82	46
Blacksmith.	90	35
Shipwright.	82	35
Tailor (Foreign clothes)	92	35
Tailor (Japanese clothes)	61	30
Shoe maker.	55	45
Screens-dealer.	85	25
Cabinet maker.	83	35
Printer.	60	33
Dyer.	90	32
Confectionery.	50	31

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

●政府暴戾（二）

甲信傳道行商を企てたる深尾韶、原子基の二氏は去十三日府中町に至りたるに、府中警察署は二氏に檢束を命じて一夜警察署に留置し、箱車一個、幻燈器械一個、書籍三百七十二冊、社會主義の歌八百八十枚、社會主義の檄千九百十一枚を悉く差押へ、三十日間之を領置する旨を申渡したり、依て二氏は止むを得ず行商を中止して十四日平民社に歸り來れり

日本之新聞

○模範巡査、模範看守

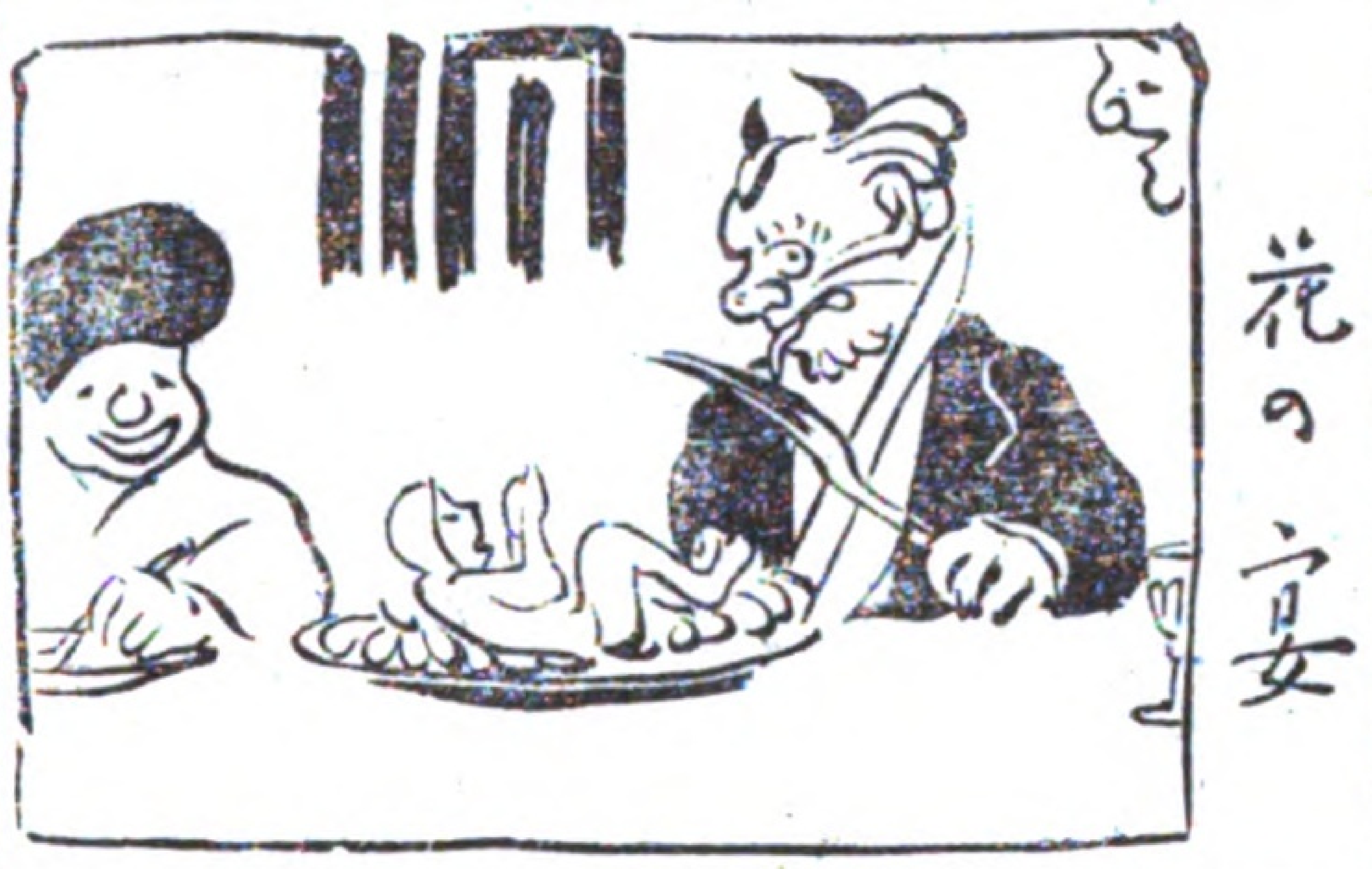
（即ち是れ模範奴隷なり）

紳士閥の諸新聞紙は、何時もながらなる其の虚僞冷酷の筆先を揃へて、模範巡査と模範看守との事を報せり、請ふ左の二節を見よ

△模範巡査　橫濱山手本町警察署巡査多喜田勘重郎（五十二）は二三日前老齢の故を以て退職したるが、氏は明治十年より巡査を勤續し、精勤衆に擢んでたる模範巡査なれば、退職前二日、特に巡査部長に推薦せられ、特別慰勞金として知事より金二十圓を與へられ、別に銀時計と銀盃とを贈られたり、氏は福井縣士族にして資性温厚、武藝に達し、三十年間疾病の爲め缺勤したる事なしと

△模範看守　牛込大久保町に住める大串幸藏（五十）は明治四年より市ヶ谷監獄にありて看守を勤め、在職三十四年の久しき間、曾て一回だも失策せしことなく、最も老練なる人なりしが、今回其職を辭したるに依り、典獄は慰勞會を開き、其席上に於て氏の模範看守とするに足るべきを稱揚したりと

諸君、模範巡査とは三十年間一日も休まず勤續して、而も退職前二日、纔かに部長に推薦せらるゝ者なり、三十年間精勵衆に擢んでたるが爲に特に金二十圓を與へらるゝ者なり、模範看守とは三十四年間の老練を以てして猶看守長にだも昇進し得ざる者なり、嗚呼諸君、全國幾萬の巡査看守は實に斯くの如き模範の下に勞働しつゝあるなり、紳士閥の理想を以てすれば、巡査看守の如きは殆んど人間以下の一階級として、纔かに飢餓を免るゝの外、一切の慾望を棄て、一切の快樂に離れ、只生きたる器械として長時間勞働を繼續し、數十年間、變化なく進歩なき生涯を紳士閥の爲に捧げざる可らず、若し紳士閥の新聞記者をして、更に模範教員、模範屬官、模範職工、模範小作人、模範勞働者、模範貧乏人、模範細君、模範淫賣婦を記さしめば、亦猶斯くの如くなるべきなり、要するに紳士閥は其手飼の新聞記者をして模範奴隷の事を記さしめ、極微の賞與と極少の奬勵とを與へて一般平民の甘んじて奴隷たらんことを要求するものなり、而も吾人は彼の多喜田巡査の如きが、其「温厚の資性」を以て、十分に其悲慘なる境遇を自覺せずして、銀杯、銀時計の如き玩具に慰藉せられ、長官の空世辭なる『模範』の美辭に眩惑せられ、其老軀に感謝の意を表するかを想ひ、眞に氣の毒の感に堪へざると同時に、亦其覺醒の晩きに對し眞にモドかしさの感に堪へざる也



○產業組合中央會趣意書

日本產業組合中央會は此度大臣、次官、局長、知事等の發起に依り、新に東京に設立せられ、平田東助氏を會長に、加納久宜氏を副會頭に、岡田良平、安廣伴一郎、吉原三郎、森田茂吉、水町袈裟六、酒匂常明の六氏を參事と爲し、左の趣意書を發表したり

△自由競爭は經濟上の進歩に缺くべからざると同時に之に伴ふ弊害も少からず、然かも弊害伴ふの故を以て之を抑制するを得べからず、依て須らく之を放任し、而して一方に於ては之より生ずる弊害を防制し、若くは輕減することを圖るべきのみ

△自由競爭の弊として、特に經濟社會に現はるゝ重なるもの一は、貧富の懸隔なり

△本邦に於ては貧富の懸隔他國に於ける如く甚しからざるも、宇內の大勢は獨り本邦をして將來の狀態を維持せしむべきにあらず、加之戰後必ず來るべき我經濟範圍の膨脹、經濟作用の發展は、必ず此傾向を急且大ならしむるものあらん、我國民中十の七八は小農小商工にして、若し此等多數の產業者が立脚の地歩を失ふことあらば、其影響の及ぶ所測るべからず、其弊の未だ甚しからざるに之を防制救濟するは、目下の急務なり、其道果して如何、曰く他なし彼等をして一致團結以て事に當らしむるに在り

△產業組合が地方自治の上に少からざる効果を及ぼすべきも疑なき所なり

△三十三年產業組合法の發布施行せられたる以來、各地方に於て漸次各種の組合設立せられ、其數千三百餘に及べるも未だ十分の活動を見るに至らず、是れ組合相互の連絡を缺き、共同助濟の道未だ立たざるに由らずんばあらず、故に組合を聯合して中央に一會を起し、全國各組合の統一を圖り、聯絡を通じ利害を代表し、緩急相濟ひ、得失相資け、益々其發達に資すべき機關を創設するは、蓋し今日の急務なるべし

貧富懸隔が世界の大勢なる事、日本獨り此勢ひに漏る可らざる事、日露戰爭終局後に於て此勢ひの大いに增進すべき事、多數の小農小商工が其立脚の地歩を失ふべき恐ある事、而して是れ皆自由競爭の弊なる事、諸君子の言ふ所と吾人平生の所見と全く相同じ、而も諸君子は此自由競爭を以て經濟上の進歩に缺ぐ可らずと爲し、假し弊害あるも之を抑制す可らずと爲し、『依て須らく之を放任し』弊害を防制し若くは輕減することを圖る』べしと云へり、斯くて諸君子は產業組合（即ち小農小商工の一致團結）を以て、自由競爭の弊害を防制輕減すべき唯一の方策と爲し、中央會を組織して其統一聯絡を計らんとせり、吾人は固より產業組合の發達を望む者、平民の『一致團結』を望む者、此の中央會の如き亦全く無用に非ざるを認むと雖も、而も其の自由競爭を是認して、之を抑制す可らずと云ひながら、一方には其弊害を防制すべしと云ふが如きを見て、此の姑息矛盾の政策が到底爲すあるに足らざるを知るなり、即ち平民が眞の自由を得んとするには、斯くの如き紳士閥の姑息政策に依頼せず、自由競爭の滅絕を理想とする社會主義の大旆の下に、强大なる一致團結を作り、紳士閥に向つて階級戰爭を開始するの外なき也

○不條理なる地代値上

地代値上の問題が地主と借地人との間に一大紛爭を惹起すならんとは吾人の既に報導せし所なり、今其値上の不條理なる所以を最も明晰に數字の上に表はしたる計算書を一讀者より得たれば左に揭ぐ

△地主等が口實とする所は政府が從來の地租百分の五率を增加して百分の二十となせしにあり、而して私共の住する所の地主は少くとも地代を五割値上せざれば引き合はずと唱ふるなり、

△今私共の住する土地にて計算するに、一坪の地價平均八圓の土地六百坪に對する百分の五率の地租は即ち二百四十圓なり、而して實際に地主が徵收する所の地代は一坪平均二十錢なれば、六百坪の地代は千四百四十圓となり、其內より地租を差引く時は千二百圓の利益ある譯なり（尤も所得税やら其他の費用を要せんも）

▲然るに增税の結果百分の二十率となる時は

$8\times\frac{20}{100}$ ― 160錢（一坪一ヶ年の地租）

160×600＝960.00錢（六百坪の地租）

となるなり、而して地代二十錢を五割値上すれば一坪三十錢となる故に

30錢×12（ヶ月）＝360錢（一坪一年の地代）

360錢×600（坪）＝2160.00錢（六百坪の地代）

即ち二千百六十圓の收入あり、其內より地租九百六十圓を差引く時は千二百圓の利益となりて、未だ增税あらざりし時と少しも變はりし事無く、戰時税の負擔は悉く借地人に轉嫁するに至るなり

是れ單に都下一局部の事實と爲す勿れ、三井其他の大地主が既に五割六割の値上を斷行せし事は吾人の聞きし所なり、又た埼玉縣下の地主等は、今や大同盟を結んで地代値上の斷行を企て居れりといふ、然も數字が示せるの眞理は最も明晰にあらずや、滿天下の借地人諸君は如何に此の眞理を主張せんと欲するや

○渴者の飲

曰く官金竊取、曰く拐帶、皆是れ平生黃金水に渴したる者が、終に其欲を制すること能はずして、泥水を飲むに至れるなり、左の三節を見よ

△四萬五千圓の拐帶　大阪市高麗橋詰町電話機械製造販賣所の雇人坂場義勝（二十六）は去四日主人の命に依り日本銀行大阪支店に於て四萬五千六百四十四圓の爲替金を受取り、其儘いづれへか出奔したり

△郵便局長代理の官金竊取　愛媛縣越智郡郵便局長代理松本金晉（四十二）は二月廿五日官金一千十七圓餘を窃取して逃亡し本月初旬大阪に於て捕へられたり

△巡査の三萬圓拐帶　岐阜縣太田警察署の巡査井深要吉は小學教員信田喜助元官吏矢野房太郎の二名と共謀し、去月廿七日銀行の金三萬餘圓を護送する途中、之を拐帶して逃走したるが、一萬餘圓を隱匿しおきて、岐阜警察署に自首したり

多數より黃金を奪ひて少數の手に收め、一方に黃金萬能の力を附し、一方に黃金渴仰の情を養はする、今日の社會組織を持續する間は、此種の犯罪は當然自然の結果として絕えず現出すべきなり

○畫家奬勵會

去日三井集會所に開かれ、左の人々參會したり

△奬勵する人　伊藤博文　山縣有朋　桂太郎　曾禰荒助　寺內正毅　土方久元　松尾臣善　近藤廉平　大倉喜八郎　淺田正文　加藤正義　高田愼藏　朝吹英二　團琢磨　益田英作

△奬勵せらるゝ人　荒木寬畝　小堀鞆音　望月金鳳　佐竹永湖　佐竹永邨　佐久間鐵園　寺崎廣業　高島北海　奧原晴湖　跡見玉枝　島崎柳塢　尾形月耕　野村文擧　太田南岳　森脇雲濤　高橋玉淵　村瀨玉田　平林探冥　八木岡春山　荒木寬友　川端玉章

美術も亦紳士閥の玩具となれり、美術家も亦政治家、貴族、富豪の奴隷とならんとする乎

○女學生と社會主義

近來女學生間に社會主義の『害毒』傳播するを恐れ、文部省は各女學校に其取締方を訓令したりと聞く、師範學校にも、高等學校にも、中學校にも、小學教員間にも、諸大學にも到る處の教育機關に社會主義の小團隊を見んとするの今日、豈に獨り女學校に於てのみ此大思潮を防遏し得んや

●『直言』婦人號

△『直言』第十二號（廿三日發行）は特に『婦人號』と爲し、婦人問題に關する記事論說を以て全紙を埋む。

△『婦人號』は全紙を色刷と爲し頁數を增し、印刷部數を增し、大いに婦人界に侵入せんと欲す。

△同志諸君の中、此『婦人號』の侵入を助けんと欲せらるゝ方には、左の割合を以て御注文に應ず

△十部（郵税共）…三十錢　△廿部（同）…五十五錢

△五十部（同）…一圓卅錢　△百部（同）二圓五十錢

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

世界之新聞

○露西亞に於ける土地の分配　露國の人口は、一億三千五百萬の多きに上れども、之を其廣大なる面積に割りあつれば一平方哩十五人の割合たるに過ぎず、さればよし不毛沍寒の地なからざるにせよ公平に其土地を分配したらんには何人にも土地の缺乏を感ぜしめざるべき筈なるに、仔細に實際を究むれば、大多數の人民は、居住し、耕作し、生活するの土地を有せざるなり、

△最近の人口調査に依れば、貴族、僧侶は全人口の一分、軍人は六分五厘、小地主は九分を占め、農民は八割一分五厘を占む、而して是等階級が私有する土地は實に左の如くなる也

貴族	一億八千一百六十萬六千五百十九エークル
商人	三千六百三十二萬一千三百三
農民	三千五百十四萬一千八百八十六
小地主	八百三十八萬一千八百三十九
其他	五百六十七萬三千二百八十九

之れ豈に不公平なる分配の甚だしきものにあらずや、何等土地と利害關係なき貴族、商人は土地の大部分を所有して、直接の利用者たる農民は僅かに其一部を所有するに過ぎず、農民の苦痛思ふべき也

○露國革命家キルコップ公　此頃の露國革命黨の一新聞は、同國內務省が地方廳及び地方憲兵隊に對して發したる一の秘密命令を掲載せり

△其は即ち同國の急進的革命黨に結合せんが爲めに今や同國に向つて出發せるドミトリ、アレキサンドロヰツチ、キルコップ公を搜索すべき事を命じたる者なり

△而して又此の命令に曰く「其活動の最も驚くべきは、國內の各地に廣がれる同派の宗教團隊とキルコップとの間に常に敏活に密使の往復するを是なり」

△キルコップ公は曾て一度トルストイ翁の門下たりしが、今は社會革命黨の一人となれり、而して彼は曰く、非國教徒は實に久しき政府壓迫の下に革命家となり來れりと、彼は又自ら保證して曰く、「予はコーカサス地方に於ける非國教徒、及びヲオルが其他の地方に於ける多くの官憲等、實に廣濶なる地方に亘りて氣脈を通じ居れば、假令露國を去るに至ると雖ども、或は公然に、或は秘密に、彼等との交通は決して斷絕ざるべし、と

△キルコップ公は露國革命家中最も興味ある人物の一人なり、彼は數年以前、ドクホボルツイ及びトルストイの教訓に動かされて、其露國軍隊に於ける任務を退き、其所有地を農民に與へ、國立の寺院を棄て、而して一たびコーカサスに追放せられ、後ち又た、再び歸るの權利を奪はれて露國を去るを許されたり

△彼に二人の子あり、名はボリス及びオルガと稱す一八九三年に皇帝の命令に依つて彼の二子は强奪し去られ、希臘舊教の寺院に於て洗禮を受けしめられ、而して目下舊教徒たる其祖母と共に露京に在りといふ

△嗚呼ガポンあり、ゴルキーあり、ブレシユコウスキーあり、ヴエラ、フヰグチルあり、而して今や又斯のキルコップ公あるを聞く、吾人は露國革命黨の爲めに意を强ふして可也

○露國婦人の奮闘　目下北米に駐まりて自國の革命黨を助けつゝあるブレスコウスキー及び二十年の徒刑の後近時北極なる一寒村に護送されたるヴエラ・フグネルの事は是迄で屢々耳にせる處なるが吾人は今又、同國婦人の奮闘に就き一報を得たり

△聖、彼得堡の「エキスプレッス」新聞は報じて曰く、ロストフに在るノヴヰユフ氏の工場に勤務する勞働者等は同盟罷工に加はらざりし爲め、其妻君等は大に之を憤慨して大會を催し、其より六百名の婦人は工場を襲ひ、嚴しく男子を痛罵せる後遂に彼等を工場の戸外に運び出せり、而して官吏は之れを制すると能はざりき、例のコサック騎兵は召致せられて直ちに其群衆の中に乘り入れり、火の如く憤激せる婦人等を馬蹄にて蹴散しながら、彼等の鞭は打ち振られ、而して多くの婦人は慘殺せられ、多くの婦人は負傷せり

吾人は徒らに華奢、優柔に流るゝ日本婦人の近狀を顧みて眞に長大息せざるを得ざる也

○暗殺者の辯明　最に暗殺せられたる露國太公セルギスの寡婦は、直接に革命黨の意見を聞きたしとて、先頃暗殺者を獄舎に訪ひて面會したるが、暗殺者は實に左の如く答へたりと

△拙者は貴夫人に悲みを致すの已むを得ざるに至りたるを遺憾とす、勿論拙者自から善行なりとは信ぜず、然れども又た此行爲を以て不正なりとは斷じて認めず、拙者は愛國者として其義務を全うしたるに過ぎず、露國と露國の隆盛との間に立ちて相互を相近せしめざらんとするものは露國宮廷なり、若し國民的進步を可能ならしめんとせば先づ此の害物を仆さゞるべからず、

△政府は其宮廷の利益の爲め幾萬の人類に對して殺人を行へり、而して殺人を以て必要なる處分なりとせり、是れ政府が國民に殺人を敎へたるにあらずして何ぞや、國民は之を政府より學びて、一億三千萬の生靈の爲めに二三の人間を殺すは、政府の行ふ事よりも數等正義なるものと確信するなり、これ決して個人に對する憎惡にあらず、露國を愛する念はかゝる行爲を生みたるものなり、故に拙者の行ひたる殺人は天下の同情を得、自今拙者の行ひを例として此種の殺人は續行せらるべし、

兵力、刑罰を以て革命の機運を壓伏せんと欲する者、宜しく深く此暗殺者の言に察すべき也

○米國の少年勞働者　米國勞働局の昨夏の報告に依れば、十六歲以下の少年にして下記十三州に勞働者たる者、十一萬六千八百六十七人あり、其內譯左の如し

△ペンシルバニア州、三萬三千一百三十五人△紐育州、一萬三千一百八十九人△マサチユセツト州、一萬二千五百五十六人△イリノイズ州、一萬四百十九人△ノースカロライナ州、一萬三百七十七人△サウス、カロライナ州、八千五百六十八人△ニユー、ゼルシー州、八千四十二人△ジョルヂア州、六千三百七十三人△メリーランド州、五千三十六人△ミソリー州、四千五百十八人△アラバマ州、三千四百七十四人、

は皆資本家私慾の犧牲となりて、教育と少年時代の快樂とを奪はれたる者なり、之れ豈に痛ましき事實にあらずや

○貧者に子を産むの權利無し　紐育に於ける「婦人政治研究會」は左の如き決議を爲せり

△曰く、貧者は子を産むの權利無しと、蓋し彼等は曾て奴隷に結婚を許さゞりし羅馬法に依て此意見を起したる者ならん、

△彼の貧者が多くの子女を有する爲め、或は悲慘に陷り、或は罪惡に陷り、子女自身も亦生涯不幸なる境遇に沈淪し、而して社會に多くの弊害を生ずるは吾人素より知らざるに非ず、然れども社會は何故に斯くの如き貧民を存ぜざる可からざるか、何ぞ速かに社會自ら改革して貧民を滅亡せしめざる、

△尙ほ一步を進めて考へよ、貧者の存するは富者の爲めに非ずや、貧者の勞働する無かりせば彼の富者も其子女も一日たりとも此世に生存し得ざるに非ずや

然り社會の最も大なる煩累は却て實に富者と其子弟に非ずや、貧者若し其双肩より彼等を拋棄せば、彼等は當に如何せんとするや、吾人は斯の如き無情なる決議が敎育ある米國婦人に依て爲されしを見て、殊に痛恨に堪えざる也

○勞働者團結の禁止　米國コロラド礦業主協會は勞働者の團結を禁止すべき一の法案を其立法府に提出せり

△而して彼等は此法案を通過せしむべく充分なる議員を有するなり

△「アッピール、ツー、リーゾン」記者は曰く、資本家は彼の立法官を支配するの手段を知れども勞働者は知らず、資本家が推薦せる人物を勞働者は唯々として選擧す、而して資本家獨り團結を爲して勞働者は其權利を奪はると

先導者たる者の苦心や察すべきなり、而も日本の社會は未だ斯の如き苦心すらも實驗し得るに至らず、吾人は一日も早く「制限選擧」てふ關門を打破せざる可らざる也

○ポベドノスチエフの辭職　露國宗務院總裁として、保守派の首領として目せられたるポベドノスチエフは終に辭職の止むなきに至れり、而して是れ敎會に於て新たに改革の氣運生じたるが爲なりと云ふ彼の宮廷に於ける暦々の波瀾、又更に一回轉を爲さんとするものゝ如し

○佛國帝政黨の陰謀　巴里附近に於て軍服及び彈藥の貯藏しあるを發見して差押へたるより巴里の民情激動せり、此の事件は大統領及び閣員を捕へ共和政體を顚覆せんとのボナパルト黨の陰謀に關聯せりと信ぜらる、之が嫌疑にて逮捕せられたる者二名あり、其の一名はハルペイ大尉なりと、是れ只紳士閥諸政派の間に於ける爭鬪のみ、平民の關知する所に非ず

○南阿淸人の罷工　去九日南阿ザユンバースデイプ鑛山に於て五百名の支那勞働者は止宿所を破壞しヂヨハネスバーグに向て逃走せんとし、騎馬警官の爲め擊退せられたり、彼等は警官に對し瓦礫を投ずる事三時間に及べり、負傷は皆な輕傷にて、カフアース人は警官に助力し、廿八名の支那人は捕縛せられたりと勞働者の資本家と戰はんとするや、兵力の常に資本家の爲に動くを見る

●無慾なる人物

△米國の社會主義者ローレンス、グロンランド氏は頃日終に死去したり、氏は "The Co-operative Commonwealth," "The New-Economy," "Our Destiny," 等の書を著して、社會主義に貢獻する處尠からざりしが、別に佛蘭西革命に就きて "Ca Ira" と題する書をも著し、氏自からは此書を以て自己の最大著述なりと考へたりと云ふ、氏は素より學者として吾人の尊敬に値する人物なるが、特筆すべきの點は寧ろ其の人格の崇高なるにあり

△彼は單に大なる文人たるに止まらずして、實に一個の偉大なる人格なりき、彼は古今を通して稀に見る無慾なる人物なりき、彼は甚だ貧困なりき、其著書は名聲を齎すことは多かりけれど、金錢を齎すことは極めて少かりき、彼れの自ら語る所に依れば、彼は屢々窮して公園に眠り、又演說了りて後、同情ある聽衆の握手を受けつゝ、懷中無一物にて而かも空腹にて閭を通じて會場を去りたること屢々なりきと、彼は自己に關しては殆ど何等懸念する所無き者の如くなりき、彼にありては美衣も粗褐も何等撰ぶ處なく美食も、粗食も、將又全く食はざるも、何等相關する處なきものゝ如かりき、彼の腦中には唯だ彼の理想あるのみ、而して彼は唯だ之を說くの機會のみを求めたりき

△彼れの紐育「ジャーナル」の編輯局に在るや、何等特徵無き其容貌は愚なるが如く、絕えず短き「パイプ」に依りて煙草を燻らし居たりき、而かも其趣味に合する問題に就きて語るや、彼の眼は常に輝きたりき、彼は丁抹に生れたるが、死に至る迄生國の特徵を失はざりき、彼は又、常にボロ〳〵の古洋服を纏ふて、押し潰したるが如き古帽を眉深く被り、沈思しつゝ街路を往來したりき、時としては讀書しつゝ行く事もありき

△グロンランド氏の如き人物は、何れの時、何れの國にあらしむるも、彼は必らずや、努力し、困難し、而して彼死せん、而して彼の偉大なる理想は、其人種の思想生命に感化を及ぼし、其不撓不屈の勇氣は永久に人類の遺產たるべし

●政府の暴戾（二）

東京社會主義傳道隊十名は去十三日社會主義の檄及び平民新聞舊號を配布せんが爲め平民社より築地方面に向ひたるに、一隊の巡査は三十間堀に於て之を遮り、終に京橋警察署に拘引して夜十二時まで檢束を加へ、檄數千枚、舊號數百部を差押へたり、又同志吉田璣氏は同日上野公園に於て檄を配布し居りしに、是亦下谷警察署に拘引せられ、同じく夜十二

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

生産の目的を論ず

(資本家經濟學を排す)

山田滴海

私有財産制度の社會を對象とせる今日の經濟學は、資本家本位の一科學也、余は之を資本家經濟學と稱す。

曰くマンチエスター派、曰く獨逸派、曰く澳太利派、其論する所や精にして細、其說く所や繁にして縟、然れども吾人は以て現時瀕死の社會を救ふに足るべきを信ずる能はざる也、豈一言無からざらんや。

資本家經濟學を繙くに當り、吾人が方に評論を試みざるべからざるの點は、其各章に充たされたりと雖も、茲には啻に生産の目的に就てのみ聊か論する所あらんとす。

試みに資本家經濟學に就て「生産の目的如何」と問はんか、即ち次の答は提供されん也、曰く

「生産の目的は消費にあり」と、

何ぞ其名の美はしくして、而も其實の相當らざるや、吾人が組織せる有機的社會は常に相倚り相助けて何物かの生産に務めつゝあり、而して其目的や誠に之が消費にあらん、何となれば消費は人生の慾望を滿す所以の者なれば也、されば生産とは、人の慾望を充さんが爲めになさるゝ人間の豫備的活動に外ならずと謂ふべし、人類社會は既に消費の目的に向つて生産を營む、然らば其生産物は先づ何人によりて消費さるべきものなりや、換言すれば先づ何人の慾望を滿足せしむべきものなりや、余は斷言す、最急の慾望は先づ滿足せられざるべからず、饑ゑたる者、凍えたる者は先づ第一に之を消費せざるべからざる也と、而して是れ彼等が生産の爲に働きつゝある目的の上よりして、當然要求すべき正當の權利にして、之に向つて先づ供給すべきは、社會人道の序なり、誰か之を否とせんや、然れども翻て思へ、現今實際社會に於ける最高の慾望は果して先づ滿足されつゝありや否やを、資本家經濟學は、茲に消費力、購買力なる術語を作りて、自家の擁着を避けたり、嗚呼最急の慾望、生活資料に向つての慾望は、多數平民――勞働者――生産者の間に於て、其激甚なること恰も巣中の燕の餌を慕ふよりも更に甚し、吾人は倉廩充てる街道に餓死する多くの同胞兄弟を知れり、然り此激甚なる慾望而もそは遂に充たされざるなり、而して資本家經濟學は冷然として告げて曰く、之れ購買力に伴はざるの慾望なり有效なる需要に非ざる也と、抑生産の目的が消費にあるべく、消費が人の慾望を滿足せしむべき道なることは、今の資本家經濟學と雖も猶之を認めたり、而して之れ一個の眞理なり、而も現實の社會は其序を誤れり、資本家制度の今日に於ける社會の生産の目的は、單に資本家の營利に外ならずして、又之實際現今普通人によりて思考さるゝの事實也、豈不合理の甚しきものならずや。

現代經濟社會に於ける矛盾誠に斯くの如くにして、人は其慘に泣き、靜かに顧みて其源因に驚けり、是豈私有財産制度、資本家制度の弊にあらずして何ぞや、而も人は斯くの如き社會を永久に視せんとし、現今經濟學といへる一科學は空々此矛盾を原理として說き、大學教授は有難くも是を經濟原論として口移しとなす、嗚呼是れ科學の欠點か、抑も又社會の欠陷なるべきか。

平民社に於る 今日の會合

▲社會主義研究會 今十六日午後六時より例の如く平民社樓上に開く、會費五錢、何人にても來會隨意、豫定の講演左の如し

△仁愛の心と正義の行 石川三四郎

△男女學生を夜讀せる共通の敵 木下尚江

雜誌瞥見

▲箸を上げむとする時(精神界三)『箸を上げむとする時、常に思へ。衆生、何者か生を惜まざるものぞ、然るに今や共に其生を棄てゝ、我を養はんとす。米は田より、菜は野より、魚は河より、牛は市より、各我がために、今や此食卓に來りて、其生命を我に捧げんとす。何ぞそれ尊きや。……我膳は實に此犧牲の聖壇なり。……我は唯茲に生まれて、尊嚴のつとめを果すべき大命を受けたり。此大命を完うせんためには生きざるべからず。生きんためには、食せざるべからず。則ち我は已むなく食ふなり。食のために、食ふべからず』△好文字、佛者忍辱の風を見る。然れども若し茲に『魚は海より、牛は市より、兵卒及勞働者は貧民の間より、各我爲に其生命を捧げんとす。我は我大命を完うせんために、彼等を殺し彼等を奪はざる可らず』と云ふ者あらば如何(記者)

▲新佛教幼年時代(新佛教四 黄洋生)『我會は、最初は半祕密的に團結される筈であつた。それは、當時の佛教界では我々を惡魔の如く思つて居たので、宗派に屬して居る人などは、入會しても名を陰にされては困る者もあるだらうといふ懸念から起つたので、これが進んで祕密結社の調査となり、終に杉村が、會員中で遣ふ何とかいふ羅典語の合ひ言葉まで出した『其通常會も最初は中々盛で、信仰に關する議論紛々といふ次第であつたが、杉村が全體信仰といふ言葉が氣に喰はない宜しく信任と名づくべしと絶叫したこともある『尤も清徒と言つたからとて、最初から禁慾主義といふ意味は少しもなかつた。飲酒などについては、寧ろ寛容な意見を多く持つて居たことは、我々が當時發表した節酒說についても見る事が出來る。然し中には高島の樣な絶對禁酒論者も居た。……飲酒よりも喫煙の方は、却て有害無益だといふ說が盛であつて、大喫煙家であつた高島と安藤とは、此時から全く禁煙することゝした今日でも我々の會合には喫煙するものは實に稀である新佛教組織の當初、我徒の中に於ては、如何なる關係あるものゝ間柄でも、此の會合の中へ來てからは、決して敬語を用ひず、平等に呼び捨てにしやうといふ說が起り、且つ……アグラ非禮讓論といふものが唱へられ、其首唱者はどうせ杉村である』△彼徒昔日(今日もだらうけれど)の意氣、眞に欽すべきに非ずや(記者)

▲一大人道館を建設すべし(新公論四 佐治實然)『予は非戰論者なれば戰捷祝賀に就ては何となく氣の乘らぬこゝち致し候、然し紀念として何等かの企圖を爲すは強ち惡しきことにもあらず被存候、……凱旋門の如きは予は取らず、……予は東京をはじめ日本の大都會凡そ十ヶ所ほどに大々的會堂を建設し、將來人道の爲に宗教道德學術に關する高論卓說を說きもし聞きもせらるゝやう致したく』△若し此意見行はるとも、其會堂は社會主義演說會には貸されぬなるべし(記者)

▲三井王國と岩崎王國(獨立評論三)『昔し足利尊氏は大地主(即ち武士)の代表者にして其歡心を得たりしが爲めに後醍醐天皇は宸襟を悩まし給へり。大金持の全能力何ぞ必ずしも足利尊氏に讓らんや。彼は無節操なる政治家を議席より去らしむるを得べし。新聞記者をも指揮して其好む所を書かしめ所謂輿論をも製造せしめ得べし。高き給料に依り國家に必要なる人才をも拔き去ることを得べし。彼れ若し大仕掛に働かば總ての銀行をして其財嚢の口を閉ぢしめ以て政府の糧道を絶つことをも得べし。是れ豈國家活動の前途に障碍物を横たへ得べき仙盛隣摩に非ずや。……我輩は信ず、今後の富豪といへる大小の國家あり……今も國家の下には更に政治問題に於て最も深き注意を以て研究すべきものは國家對富豪の問題是れなり』△山路愛山、其自在の筆を以て二大富豪家の內面を記述論評する所、眞に近頃の讀み物なり。吾人をして更に次の一節を紹介せしめよ(記者)△『三井家の仕組を云へば總ての事が明治政府を小さくしたる者に似たり。其物産會社三井銀行鑛山會社とは則ち三井王國の各省にして之を統轄する監理部は其內閣とも云ふべく、同族會と云ふは其宮內省にして家憲と云ふは其憲法なり則ちどんな分らず屋に見せても摸擬の迹、歴々たるものあるは掩ふべからざらん』△吾人は本願寺の組織を見て、常に其の餘りに善く政府の組織に似たるを思ふ、宗派も富豪も皆是れ今の經濟的封建制度の大諸侯にして、相共に紳士閥を形成する者なれば左もあるべし(記者)

▲基督教界の排外思想(大日本六 乾坤生)『基督教は其の本質に於て超國家と超人種の宗教なり。……何ぞ國家的、日本的、若しくば武士道的の基督教ある理由あらんや。もし斯る基督教ありとせば是れ國家の奴隷となり民族の犧牲となりたるものに非ずして何ぞや』『嗚呼大和民族を過讚激賞する俗化的宗教家よ、日本帝國の前に合掌拜跪する愛國的說教家の武士道の福音を宣傳するに齷齪汲々として外國宣教師の傳道を攻擊する教師よ牧師よ、活眼を開いて汝等が讚美し賞揚し謳歌しつゝある國家と國民の其相を見よ。……汝等博愛と救世の基礎なる人類同胞と世界一家てふ大主義を國家萬能と民族神權てふ十字架に釘づけて基督教を殺さんとする者に非ずや』△こはそも誰にあてつけたるものにや(記者)

▲平民社の國家觀(新人四 翔天生)『平民社諸彥の根本の大誤謬は「國家」と「國家的制度」とを混同するに在り』△吾人は制度以外に「國家」あるを認むるを得ず、吾人は「新人」の諸彥が其制度に隨喜するを怪むのみ。前項を參照あれ(記者)

▲夢に老翁と語る(學燈三 曾稀生)『朝三暮四に似たるヘンリー、セオルニズムを救世の宗教と奉ずる透徹なる社會主義者よ『トルストイは所謂社會主義者に非ず『社會主義か……亦一種の壓制なるを知らずして』云々△高教多謝々々、社會主義に關する吾人の智識到底曾稀君の深きが如くならず、『平民新聞』及び『直言』の讀者は暫く曾稀君の言に依りて始めて大いに悟る所あるなるべし(記者)

ボストン便り

ハーバート大學院にて 金子喜一

△「進歩と貧困」祝賀會 數週前紐育で開かれた、ヘンリージョーヂの「進歩と貧困」出版二十五年祝會と曰ふ會合の會費が、一人前五弗であつたのを大分やかましく曰ふた人がある、成る程社會改良の志士が寄合ふ會費としては五弗はちとひどい、何事も形式が未に成つて、精神が忘れられる時は、こんなことは珍しくない、而しくその席上でジョーヂの子息は曰ふてゐた「予が父のアルタマアは多くの人の誇り得る樣な有名な大學者ではなかつた、彼の出身所は活版所の片隅であつた」と、活版所の片隅から起きあがつた偉人の著述は今や紐育第一のホテルで、その祝會を開かれた、地下のジョーヂは果して何と思ふであろう

△四五年前、予が初めてヘンリージョーヂの子息をフオートハミルトンと曰ふ所に訪ふた時、彼は實に無愛情であつた、予は當時感ぜざるを得なかつた、古來偉人の兒に愚物多しとは正しく此事であらう、父なるジョーヂは終生貧困と主義と嘲罵との間に過ごし戰を戰ふたのに、子なるジョーヂは父の著述の收入に衣食して、安樂と平和と貴族主義の生活を送つてゐるとは情けないぢやないか。

△ハウプトマンとズウデルマン 近頃久しぶりでドラマを讀んで見たいやうな心地がしたので、名を聞いてゐた獨乙のハウプトマンとズウデルマンの一二を繙いてみた、ハウプトマンの「沈鐘」は空想劇で、事實を愛する予には餘りに夢みたやうだ、『ファウスト』にあるやうな、幽靈や、妖魔や、山の神やが餘り多くて、如何しても眞面目に讀めない、世の文學狂の隨喜喝采は餘ほど奇體に出來てゐると見へる。

△ズウデルマンのは『生活のよろこび』を讀むだが、これは餘程面白い、愛なき結婚の悲痛に終らざるべからざるを示したもので、その人物の如きも實際の人物で、リッチャードの如きは實に吾々自らが其人である如くに思はれるのである、エレン孃の如きも中々能く描かれてゐる、リッチャードが他人の妻たるベエタとの密接なる關係あるにも係はらず、愛なき婦人に婚して互に面白からぬ生活を送れる時、一日議場に於て離婚問題を演ぜねばならぬ場合となりしも、彼が心理は如何に悶へしか。

△「眞人の自白」 木下尚江君の新著『眞人の自白』は、此の問題にふれてゐるとのことだが、予は不幸にしてまだ見ない、予は木下君が早くも此問題をとらへ來つたことを喜ぶものである、見よ今日の吾國に於て自分の愛を犧牲にして、あるは親戚のため、あるは父兄のため、甚しきに至りては今の滔々たる教育されたる子女が唯だ地位と財産のために、輕々にも結婚する如きは何等いやしむべき現象ぞ、婚姻を以て一種の職であると思ふは、當今多數の子女が誤れる夢にてはあらざるか、吾人は今の所謂女子教育が單に形式に流れて女子教育は良妻を作る者のみの如く思ふのを難ぜんとする者である。

△女子教育の最大要務は無論良妻を作るにあるであらう、而も吾人は彼女を良妻とする前に、獨立し得る子女とせねばならぬ、然らざれば結婚は唯一の職業で、衣食にありつく手段となるも怪むには足りない、吾人は世の女子教育を以て任ずるの士が今少しく實際的眼光を以て、その任に當て貰ひたいと思ふ。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

さくら宗吾

(上)　そろり

「……お峯……ヲイお峯……」此聲は甚だ難かしひのだ。無論お峯には聞せ度い、以外の人には聞せ度ない、聞れては其だけに危險だ。尤とも内の者なら誰れでも大事ないのだが……否それも然うでない。宗平か、喜六、仙之助等が聞付ればい丶が、もし他人が來て居ると困る。如何したもの、生憎な大雪で、加も吹雪が強くて聲が吹飛される、忌々しひ。けれど仕方がない、更に「お峯！」

「ハイ誰何……」やう〳〵聞えた想な先よし「お峯、誰も來ては居らんか己ぢや」「イヤだ、日那樣ですか」「さうぢや。誰ぞ來て居るかい」『イエ誰も來ては……』と云ふ聲が飛で出て、狼狽て沓脱に下た容子だ。

積雪で重く成つた戸に内から力を入れたが、案外ツルトと辷つて走つたので、蹉けて出た身を投掛けてシガミ着いたお峯、直に他愛なく涙が落て止らない「あ丶これさ、雪だらけに成るによ……誰も居らん歟と云ふのによ」「誰が居るもので子供が寢て居るばかりです。あ丶嬉しひ私しやモウ如何しませうよ。さアまア早くお入りな、ほんに〳〵之は能くお歸りでしたねえ、全く夢の樣ですよ」云ふ中にも宗吾ツユ油斷がない、軒の竿竹を外して、及び腰に成つて、自分の足跡を遠くまで拂ひ消して、更に其道を熟く見屆てから入ると同時にパタリ戸を引く。代つてお峯が輪掛鐵を掛けて、雪の合羽と笠を脫せて、其處に置うとすると「イヤ俟てよ」と自分が取つて、拇板の下に納れて、それから框に腰を掛る。前に廻つて「私しが、私しが」と草鞋も脫せて、尙は手近にある、爐の自在の大藥罐を外さうとする「イマ入らんよ、足袋を脫けば綺麗だから『さう、それでは』と又た前に廻つて、凍つた紐をヤッと解いて脫せると、果して足の先には泥氣もないが、又た血の氣もない。

乃てニジリ上つたのが。久々で小戻した我納戸の内だ。障子を閉て、今の爐の前に尻餅を搗てホッと一息。先以て見渡すと、三人の子は幸ひに健康らしく、シカも熟く寢入て居る。さふして寒いと見えて、宗と喜は抱合うたまゝ引被つて頭の先が少し見えるばかり、仙は今までお袋が抱寢して居たので、箱枕と括枕と並べて、之も半面を隱して、地藏樣の樣な寢顏を見せてすや〳〵と何にも知らない、さて安心した、何よりも。

時に尙は聲を落して「お峯、湯を一ッくれまい歟」何が何だか、まだ夢の樣な思ひのまゝで、連りに爐の火を焚付て居たが「唯々」と、そは〳〵しく例の天目に八分目ついで出して、度々袖を目に當てゝは之も小聲だ「まア如何してお歸りでしたえ、何だかモウ顚と譯が分りませんですよ。それに江戸の方のお首尾は如何でした。もうお歸り切りで渡ますかえ」「イヤ濟ない、迚も歸り切りなど丶は、思ひも付ん事ぢやわ」

尋で嘆息に堪ざる模樣であつたが、少時して「早速ながら、今夜はお主と永らくの別れをせうと思うて、小戾したのぢや」「アレ、厭な事を……」と一膝よせる「さア、歸り匆々此樣事は云たうないがな、もう仕方のない塲合に迫つたからぢや……イヤそれは然うと、内の方は如何ぢやつた、手が廻つた容子かい」「それですよ、で、それは〳〵モウ甚ひ惡しみですよ。先日お前が御大老にお駕訴を成された然宗吾が歸つたら直に縛る、直に礫殺にするなぞと云うて、日に三度、夜に三度、手先らしひのが二人も三人も」「さふぢやらふ、それも覺悟ぢや」「で、お前を親の樣に思ふ村の衆一同が心配して、手先の跡から付纒うて來たり去ンだりいぢらしひ事です。みな田も畑も二年越も捨措てさ。さふして今日はあゝ昨日は斯うと、一々知らせて下されて用心させます」「ハア然うか、それが何より氣の毒ぢや。が、なんぼ云うても止ンので困るわ。時に己、御大老樣へ駕訴したのに由つたら、お高に障ろも知れぬと云ふ噂もある。唯さへ狂氣めいた殿樣が之を聞れてナント堪るものか、宗吾！犬畜生で、江戸で殿樣が大の不首尾ぢや、次第！従類を絶さにや措ぬ、八裂にせにや措ぬと狂ふてぢや想な。それもヤハリ覺悟の前で、己や徽塵も動じないが、唯お主ら迄に……と思うと、不便で不便で、情なうて如何も堪らぬわ。で、お峯、能う此處を勘辨せよや、今の中に村役へ屆をして、お主を特と離別せうと思ふのぢや。それから子供は人に賴うで何處へなと遠國へ隱さうと斯う思ふのぢや。さすれば罪はお主に及ばぬ、子等も隱れて世の變るを俟てば命に障らぬ、之がモウ己の冥土の障りを拂ふ考へぢや程に、何にも云はいで承知せよや、や、可しか…。實は之を語ろと思うて火を踏む樣な思ひをして來たのぢや」

さふして、自分ばかり嚴刑に遇うて、錆鎗に縋れて死なうの覺悟、易からぬ心盡し、夫婦の至情、親子の情、怖しき迫害の避け難き絶體絶命の塲合、實に窮餘の窮策、人が笑はゞスキに笑へ、もう此外に何の考案も將もない。

「まア呆れた、お前程の人も血迷うてかね、聞くも汚らはしいヲ、厭々」唯此一言で排斥して、更に「それよりも、さア中及が熱く成りました、一ッお過し、お肴は何も有りませぬが、無事な子供の顏を見て。それにお前お駕訴したとて。佐倉領に足踐さへしなければ」「否駕訴ぐらゐでは迚も叶はぬ、實はモウ一度えらひ願をやらふと思ふからぢや」

夜は大分ふけたらしい、岸を打つ印旛沼の浪の音、吹雪も益々聲を立て丶之と爭さふ。俄然、けう〳〵と鳴くは鴨の聲、折々サッと云ふはそれが水へ入るの羽風、將門山を掠めて、何れへ飛ぶ村千鳥、一里に亘つて、かすかに聞える城の太鼓の九ッは今の十二時であらふ。

新刊紹介

▲報德要論(吉田宇之助著)　著者が二宮尊德翁の流を汲むものなるとは本書の標題を以て明かならん、著者の自序に曰く「報德の旨は深遠博大にして小子後生の窺知すべきに非ず…然も此の旨の經世濟民の大道たるを信ずるが故に敢て此の著あり」と、別に新議論ありといふに非ず(正價廿錢、日本橋大傳馬鹽町義華房)

▲新人(第六卷第四號)　又々「平民社の國家觀」といふ一文が「翔天」とやらいふ人の筆に成つて居る直言紙上の「社會主義者の愛國心」が記者殿の逆鱗に觸れたのだ、餘り鄭重なる御言葉を頂戴いたしたので、吾等は之に報ゆべき道を得ない、が、かゝる立派な使徒達があれば海老名先生の御威德もいやが上に宣揚せらるゝ事であらう(?)本郷教會の行末こそいと賴もしけれ、あなかしこ(一部十二錢、小石川久堅町新人社發行)

▲東亞經濟雜誌(一二七九)　京橋彌左衞門町其社
▲新佛教(六の四)　小石川原町鶴聲堂
▲教育新聞(百)　神田千代田町其社
▲上田新聞(十七)　長野縣上田町其社
▲日本人(四八)　神田雉子町政教社
▲明義(六の三)　麴町區紀尾井町其社
▲學燈(九の三)　日本橋通三丁目丸善
▲史學界(七の四)　京橋區尾張町一隆文館
▲法律新聞(二七一)　日本橋本銀町其社
▲好學雜誌(二二)　豐多摩郡千駄谷其社
▲近畿評論(七四)　京都上京木屋町其社
▲基督教世界(一一二七)　大阪北區中之島其社
▲求道(二の三)　本郷森川町其發行所
▲太陽(十一の五)　日本橋本町博文館
▲婦女新聞(二五七)　牛込東五軒町其社
▲二十世紀の婦人(二の四)　麴町區飯田町其社
▲經濟新聞(廿三)　日本橋區蠣殼町其社

編輯雜事

▲社會主義の歌謠集　通俗にして、分りやすく、歌ひやすき、而も餘り長からざる唱歌風の者を望む。

▲社會主義の俳句集　是亦通俗にして、簡短明瞭にして、而も面白く讀まるゝものを望む。

▲社會主義お伽話募集　社會主義的思想を含みたる小話ならば何でも善し。

▲投書の文章　は成るべく簡潔ならんことを希望す。但し眞に價値ある大議論大記述ならんには、一頁二頁に亘るの長文たりとも、固より厭ふ所にあらずと知るべし。

▲編輯に對する批評と注文　は記者の常に喜んで聞かんと欲する所也。何人にても御遠慮なく御申越あらんことを希望す。

勞働に生きよ(續)

小野有香

(五)

不義の榮華は浮雲の　その理を外にして
けゝら〳〵の高笑ひ、　惡魔の相ぞ身の毛立つ。
「手と身」の人は嘲られたり　嘲られたる「手と身」の人
何默すべき義しきを　慕ろ彼等ぞ、怒らずらんや
先づ叫ばれし憤怒の聲は　里昂鬪ひしそれなりき。
『勞働によりて人は生きよ　さらずば死せよ戰ひに。』
人說く道の敎へには　これぞこの世の誠なる、
『働かぬ者は生るの權なく　働く者は生るの權あり。』

(六)

誤られたり世の人に、　聖者が教の眞意義は、
人パンなくて生き得んや、　さはれパンのみならじとは
聞ずや、こゝに第二の聲、　牧師ステフエンは叫らく
「我等が執れる題目は　小刀と肉叉に外ならず。」
チーエンチルは叫ばずや、　「淫逸、遊惰」を打ち倒し
敎へ妻子の不幸なば、　滿足は懸かる汝が盡力。」

(七)

蜜を尋ぬる蜜蜂の　微けき羽音も集れば、
春爛熳の花陰に　天鼓のどよむ響あり。
人も孤立に力なく　一つの腕は弱くとも
結べばやがて世の戀も　革めつべき力あり。
嘲けるべくは嘲けれや　侮辱罵詈せよ思ふまゝ、
「手と身」の人も今に見よ　風霜帶びて起たんには。

(八)

我等この世に働けば　我等は生ろの權あるぞ。
この血この汗いつまでか　不義の汚辱に忍ばんや。
『鐵は冷たく殘酷』の　譬喩はあれど、さりながら
黄金の餅に比ぶれば　何者かあめやも、酷の極。
人之れがため氣は狂ひ　天賦の性を損なふは、
家を滅ぼし身を殺し　親子離散の悲劇これ。
人之れがため氣は驕り　不義の快樂に耽りては
世をも人をも顧みず　人格を捨つるぞ惡なる。
『人、我敎を奉ぜんに　有てる財産を貧人に
與へて、孰れや十字架を』　眞實や愛の敎なる。

(〈をはり〉)

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

●通俗社會主義

アプチフォード原著 堺枯川抄譯

(十二) 實行の手段方法

社會主義も善いが、實行が六かしい、一體汝等はどういふ手段方法に依つて實行する積りかとは、私共の毎度出會ふ質問であります。私も實はそれには閉口するのです。私ばかりでは無い、何處如何なる社會主義者と雖も、コウ／＼斯樣にして實行しますと、[illegible]形に申上げる樣な定案は持ちませぬ。そして時に依り、處に依り、適宜の手段方法を取ると云ふのが、今日の社會主義者の考へです。

然し只一つ、何よりも先に行はねばならぬ事は人民の教育です。人民の多數が社會主義を解し、之を信じ之を望む事になれば、跡は自然に出來て行く譯です。社會主義は、決して一時の激變に依つて行はれるものではありませぬ。今日の社會の狀態から自然に生長發達して行くの外はありませぬ。そこで我々は只、善く人民を教育して其生長發達を早めたいと云ふのです。

世間には又、何時から社會主義をやりはじめるのだと問ふ人がある。是は實にをかしい話で、社會主義は疾くの昔から既に始つて居るのです。

例へば、橋錢を取る事を止めたのは、橋を人民の共有財產にしたので、やはり社會主義的です。公園を拵へたのも社會主義的です。義務教育の制度も社會主義的です。工場法も社會主義的です。それから郵便、電信、電話、水道の如きは最も多く社會主義的です。

然らば社會主義は何時完成するかと云ふ疑問が次に出るかも知れぬ。然しそれは又隨分をかしな話で、一體、物に終といふ事があるものぢやない。我々が死んでしまつて、忘れられてしまつた跡でもまだ此世は駸々として進んで行く。孫や曾孫の時代に果してどんな事が行はれるか、それは我々の知り得る所ぢや無い。そんな先の事まで今日から考へ過ごして世話を燒かうとするのは、そりや餘りの自惚といふものです。我々の子孫に對する義務は、只此道路を出來るだけ平にして置いて、他日の進歩を容易くするといふ丈の事です。

社會主義の世は必ず來るには相違ないが、我々には見えぬ路に依つて來るかも知れぬ。そして我々の思ひ外の方に進んで行くかも知れぬ。我々の爲すべき所は只其到來を助ける丈の事です。そこで其到來を助ける方法を、思ひついたゞけ話して見ませう。

我々は先づ無職業者及び失業者に職業を與へたい。老人に年金を與へたい。貧民窟の樣なものを無くしたい。勞働者の勞働時間を短くして賃銀を高くしたい。瓦斯や煤烟の樣な汚いものを無くしたい。水害や鑛毒の樣な事を無くしたい。土地其他の生產機關を國有にしたい。然し是等の事を成し遂げるには、先づ輿論を作らねばならぬ。そして其輿論を議會に發表して、法律を作らねばならぬ。そこで我々の爲すべき所は、第一、人民を教育して社會主義者を作る事、第二に其等の同志者に結合して社會黨を作る事です。

扨いよ／＼社會黨が議會の多數を占めたならば、先づ何から始めるでせう。其時の社會黨議員はいづれ皆賢明の人達でせうから、必ず種々名案のある事と察せられますので、私が今からそれを指圖して、あゝするが善いの、斯うするが善いのと云ふは實に僭上極まる次第ですが、然しマア諸君の御參考までにチヨツト私の腹案だけを申して見ませうなら、多分は先づ第一に土地の國有にでも着手する事でせうか。それから先は失業者の處分、鑛山、鐵道の國有などでもありませうか。

假に土地國有から始めたと想像して、扨其方法はドウするか。私一個の說としては、賠償などは不必要と思ひますが、マア假に賠償を出して買上げるとするならば、成るたけ安くして買ひたいものです。鑛山も鐵道も同じ事です。

次に失業者の事、是は職業に依りて分類し、一々政府に登錄して、それ／＼仕事に就かせねばなりませぬ。先づ大體三種にでも分類しませうか。即ち農業勞働者、普通勞働者、建築勞働者。

此中で、第一の農業勞働者には國有の田畑を作らせる。第二の普通勞働者には種々の公益事業をやらせる。第三の建築勞働者には新式の家屋を新築させる。

斯くて國有の田畑を中心として新社會の新村が起り、其村民は何程かの地代と租税とを政府に拂つて、其他の勞働の結果は悉皆自分の所有とする。そうすればモウ世の中に失業者もなく、貧民もなく、乞食もなく、働きの出來ぬ老人には年金を與へて安樂に殘年を送らせる事になる。それから又、才學の秀でた人を選んで委員と爲し、それに電氣の事など專門に研究して貰つたら、今日の蒸滊だの、瓦斯だのと云ふ、汚い煤烟事業を無くしてしまふ事も出來ませう。其中には又、鐵道も、船舶も、運河も、船渠も、鑛山も、田畑も、一切國營にしてしまつて、漸次に一切國內の產業を整頓する事になりませう。

是がマア私の考へで、勿論粗雜でもあり、不完全でもありますが、幾らか諸君の御參考になれば本懷です。

△金色のちいさき鳥のかたちして銀杏ちるなり夕日の岡に　晶子

△ほとゝぎす聽きたまひしか聞かざりき水の音するよき寐覺かな　晶子

(「戀ごろも」より)

●鮫ヶ橋の貧民窟

駁子　草水

▲雨ばかり續いた此頃には珍らしい好天氣だツたので、四月八日朝四谷鮫ヶ橋なる貧民窟探險と出掛けた。鮫ヶ橋の入口の坂を下りかけた時、下の方から一人の老婆がノロ／＼とのぼツて來た。餘り腰の屈みがひどいので五十歳か六十歳か年さへ分らぬ[illegible]。深川君はそれを見て「僕は最う此の貧民窟へ入ツて行く氣がない」と立止ツて了ふ。無理ヤリ引ツ張ツて裏店の方に歩を向けた。成るほど思ふに増した哀れな有樣だ。

▲もし之が雨の日だツたら又一層だらうと思はれたが今日は幸ひの天氣で家に居る人は極めて少なかツた。それでも病人の見えた家が一二軒、僕等は一通り見廻ツてから此貧民窟に唯一の[illegible]たる鮫ヶ橋尋常小學校を訪つた。

▲校長中川氏は平民的で中々眞面目な好校長らしい。氏は特に此貧民窟の中に住んで、兒童ばかりでなく、父兄まで教育しやうといふ抱負を持ツて居られるので、其成績に見るべきものが多い。

▲此學校の校訓としては偏りと乞食根性を排斥して自活といふことに重きをおいて居るさうだ。それで今では父兄まで此氣風に感化されて了ツたとの事である。

▲不思議の事には此區には盜と乞食との全く無い事である。見るべし、食ふに食はれぬ彼等さへ尙ほ[illegible]ることを。是等の罪を犯すものはヨク／＼の事情があるといふことを吾等は味はねばならぬ。

▲學校の設備は斯かる種類の學校としてはマダ／＼不完全な點が多い。けれども兒童の用ゐる本や道具を皆な貸し得るのと浴室の出來てゐるのとは嬉しかツた。これでも市の役人は一寸だと言ふのださうだ。學習院の華族の學校の樣な立派な學校を自分等は建てゝ置きながら、自分さへ[illegible]ければ濟むと思ふか。馬鹿ツ。

▲兒童の數は男が一六三、女が一二一、合計二八四人で此內七四人は稼ぎの片手間にやツてゐるのである。そして一日平均六錢五厘づゝを得てゐるのだ。

▲そして其保護者等の收入は一日最多六十錢、最少僅かに十二錢である。諸君、これで一ヶ月七十五錢乃至一圓七十五錢迄の家賃を拂ツて如何して食ツて行ける？予は病人と罪人の多く出ないのを訝しく思ふ位ゐだ。

▲此貧民窟は外のと比べると割合に進んでゐるらしいが、それでも貧血病者の多いのとトラホームの多いのは免れぬ。人間の色をしてゐる人間は可哀そうに容易に見付かりやしない。

▲最後に兒童保護者の職業別を記して見やう。

人力車夫	七四	馬丁	三
日雇	四二	各所使丁	四
[illegible]車職	三一	桶職	三
土工夫	一七	洗濯內職	三
瓦職手傳	九	芝居札賣	二
兵器工	四	[illegible]	三
[illegible]式人夫	五	下駄齒入	三
煉瓦手傳	四	看板職	三
左官手傳	五	柏餅賣	二
納豆賣	四	提灯職	五
ブリキ職	四	縁日商	二
紙屑買	四	雜業	三
車力	六	其他	一三
木挽	二	無職	四

●拘留の一夜

山口生

四月二日には上野公園に於ける勞働者懇親會の解散せられし時、警吏の爲めに頭部を毆打せられ、[illegible]をへし折られ、下谷警察署に一日の拘留を命ぜられたる余は、翌日青年[illegible]の社會主義演說會に於て、[illegible]たる胸中の不平を吐露せんことを期し、[illegible]行けり。行いて幾干もあらずして警吏は來り、余を拉し神田警察署に同行を強いぬ。余は其の何の故たるかを知らざりき。見よ拘留所の暗燈は死の光の如く、[illegible]女房に青白き顔を垂れて[illegible]なるや、余が[illegible]は野地の手帖に記さるゝ、携帶品は小出にてくゝられて傍に並べけり。余の隣には二三才なる稚子を抱へたる母と、相對してさしうつむき一人の娘あり。彼等は貧に迫り窮に作（な）す[illegible]るなりと。彼女何の罪ありや。あゝ貧淫なる[illegible]會！彼女に對して賣淫婦と罵る權利ありや。[illegible]いて彼女に向ひ、己も行[illegible]たる時は[illegible]「[illegible]てやる」などいひ、[illegible]顔ならいつでも買ひに行つて[illegible]はしき貧[illegible]の下に、彼女の[illegible]をなぶり、[illegible]あらゆる侮辱と凌辱を逞しうせり。余は憤り怒りて此可憐なる一人の姉妹の爲めに泣きぬ。余は[illegible]に一切[illegible]を交はすまじと、彼等が如何に余に問ふとも、余は知らざる眞似して一も答へざりき。彼等は余の一人[illegible]所に行かざるを見て「一匹そこに[illegible]」と余を指して[illegible]過ぎ行けり。春の夜の雨は[illegible]に咽んで、孤獨[illegible]として光なからんとす。十二時に近からんとして余は[illegible]の前に呼び出され、去月三十一日神田[illegible]なる[illegible]會のビラを[illegible]にて貼付せし廉に依り、違警罪[illegible]にて科料金[illegible]十錢を徴せられぬ。門を出づ[illegible]、會の歸途なる數十名の同志は、余の安否を氣づかひて今門外に集り來れり。乃ち一同聲を揃へて高く叫びぬ、社會黨萬歲！

●運動基金收支廣告

▲金九百廿二圓八十錢也 (三月一日現在)
▲金十圓十五錢五厘也 (三月一日より十五日まで)
▲金十四圓八十七錢五厘也 (三月十六日より廿一日まで)
▲金十九圓八十七錢也 (三月廿二日より廿九日まで)
▲金廿一圓九十五錢也 (三月卅日より四月五日まで)
▲金六圓八十四錢也 (四月六日より十二日まで)

內譯
△金十四錢　鳥取　君野順三氏
△金五圓　紀伊　大石誠之助氏
△金五十錢　神田　宮本氏
△金二十錢　木下氏
△金五十錢　茨城　木村氏
△金五十錢　北海道　小林[illegible]二郎氏

合計金九百九十六圓五十九錢也

▲金百圓也　西川、幸德兩氏罰金
▲金十二圓七十錢也　傳道行商補助
▲金三圓也　大[illegible]入獄
▲金廿一圓八十錢也　社會主義の印刷代
▲金七圓五十錢也　勞働者懇親會補助
▲金六圓二十錢也　大[illegible]
▲金六圓五十錢也　小演說會四回分損失
▲金五十錢也　三月末平民社補助

支出合計金二百七圓七十錢也
差引現在金七百八十八圓八十九錢也 (四月十二日)

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

同志の運動

▲社會主義婦人講演 (平民社)

△豫定の通り去九日午後二時より平民社に開會、來會者は婦人十六七名、外に男子十餘名。

△第一席は石川旭山氏 の腐敗を極めたる「同盟軍人の結婚」の話、それはいづれ委しく本紙に記載の筈。

△第二席は神川松子氏 の「獨身に對する我見解」獨身主義を分つて「道徳上より來る者」「經濟上より來る者」「事業上より來る者」の三つと爲し、此中、前二者は不健全にして人情に悖る者なりと爲し、只第三者のみは其抱負の大なる爲に滿腔の同情を寄すべしと爲し、此種の獨身者は決して人情を知らざるに非ず、理想的の配偶者を得て地上のパラダイスを作らんことを望まざるにあらず、然れども餘りに腐敗せる此社會を坐視するに堪へず、此社會を救はんが爲に身を提し命を捧げ、敢て自らスヰートホームの樂しさを塞て、其天職を盡さんと欲する者なりと爲し、我も亦此第三の獨身主義者なりと公言せり、松子氏は青山學院の生徒にして年未だ廿歳に過ぎざれども、其の眞率にして熱烈なる告白は、深く聽者を感動せしめたり

△第三席は堺利彦氏 の「女らしさとは何ぞや」、男女兩性、生物の生殖作用に於ける分業にして、動植物に在りては分業は只是のみなれど、人間に在りては猶他に種々雜多の分業あり、故に人間の分業は決して男女性に依りて之を定むべきに非ず、然るに世の論者、女子教育の稍く發達せるにも係はらず、猶頻りに「女は女らしくせよ」と說き、其「女らしさ」と云ふ一語を以て、婦人を家庭の奧、乃至はヘツツイの前に封じ込め、結局、柔弱、卑屈、無氣力なる婦人を作り出ださんと勉むるが如し、是れ飽くまでも男女間の階級を認め、婦人を一種の奴隸とするものなり、されば彼等が女子教育の必要を說くは、畢竟一層便利なる(學問ありて意氣地なき)奴隸を作らんとするに外ならず云々。

△第四席は木下尙江氏 「良人の自白」の苦心談より入りてトルストイの名著「アンナ、カレニア」の事に及び無愛情の結婚の行はるゝ今の社會に於て姦通の生ずる所以(否寧ろ生ぜざるを得ざる所以)を說き、アンナが一たび姦通して夫より其罪を宥されながら、猶且つ夫の意に從ふを肯んぜずして「我は如何にしても御身を愛すると能はず、我は既に彼の人の妻なり」と斷言したる勇氣を稱し、戀愛の自由と神聖と權威とを示し、日本の男女(殊に青年男女)が深奧なる戀愛の意義を解せざるを罵倒し、顏を赤め首を垂れて私語し微笑するが如き、淺薄にして輕佻なる男女の情交は、決して戀愛と名づくべきものに非ずと斷じ、最初の温顏は漸次に昂騰となり、終に怒氣滿面、卓を打つて稚氣ある聽者を頭上より叱咤して壇を下りぬ。それより小川金治氏と堺氏との間に「自由戀愛」に關する質問應答ありたるの

△最後に吉崎吉子氏 は、政府が女學生間に社會主義の思想の入るを恐れ、之が取締を爲すべき旨各女學校に訓令したりとの事實に對し、是れ思想の自由を束縛せんとするものなりとて、其温和なる紅顏に憤りを示し、當局者願はくば今少しく我々青年を信任せよと云へり。吉子氏も亦青山學院の生徒也。今回の婦人講演は是までの中最も活氣あり趣味あるものなりき。

▲九州傳道行商記(一) 小田頼造

●筑前南方の山中より

△四月三日(雨) 予は此日より門司に於て傳道行商を始めた。下の關からは刑事の外、和服の憲兵伍長も尾行した。朝同志松尾枯泉君に途上で會ひ、それより元城佐太郎(牧師)、中山代三郎(同上)、森一馬、兒玉乙一等の諸氏を訪問し、鶴原五郎氏の宅で晝飯の御馳走になつた、同氏は僕の爲に斬髪をして下さつた。門司の町を歩いて驚いたのは汚ない、石炭仲仕の家と下等飲食店の多いとである。仲仕の中には婦人も見へる。小倉市に着いては熱心なる同志横田富次郎君の宅に一先づ旅裝を解いたが、憲兵の干涉の結果、同家には宿れぬ事になり、夜十時同志小島髖城君の家に行つて厄介になつた。

△四日(晴) 朝小倉市中を行商し、牧師川勝鐵彌、同矢野茂之郎等の諸氏を訪うた。晝小島君の宅に歸ると予は又しても追出された。此邊は要塞地であるので、取締が殊に嚴重だとの事。午後は若松に行商し、夜は小倉の宿屋に泊つた。夜、森藤、横田の二君來訪。二君は遠からず福岡に消費組合を起し、平民文庫の取次をも爲す計劃の由。

△五日(晴) 朝小倉を出發し、筑前黑崎に南部重遠氏を訪うて會はず。今日は中々天氣が善い。美しきは貧家の庵に咲ける櫻の花、綠林中の桃の花、黃なる菜の花、鍬に依つて畑に立てる若き乙女。醜さは此の清閑なる勞働の農村をノラリクラリと遊びあるく奴隸的婦人、炭坑の煙突より出づる黑煙、門戶闊然たる地主の家。折尾を過ぎて附近の炭坑に森藤三郎君を訪ひ、此夜同君宅に厄介になる。

△六日(晴) 森藤君は僕を宿泊させた事に就て炭坑事務所から小言を云はれたそうな。此日途中で某村の村長が、成功宗を予に說いて、「君の樣な若い者が本など賣つて歩くのか」と、立身出生を勸告して吳れた。

△七日(晴) 朝、明治炭坑第一坑に伊藤鶴造君を訪ひ坑内を見せて貰つた。坑内が餘りに暗いので、安全燈は提げて居ながらも、初めの程は足元が見えなんだが次第に慣れて周圍がハツキリする樣になつた。今日は舊暦の節句で大概の坑夫は休業して居たのが、只一人の坑夫君が獨りゴツ〳〵鶴嘴を以て石炭を掘つて居る飢餓は此安息日にも此人を追立てゝ地下幾百尺の暗黑裡に入れたのであらう。午後小竹に出でゝ行商を續けた途中巡査が來て書籍を見せよと云ふ、恰もそこに女教師が通りかゝりて村井氏の「社會主義」を一册買つて吳れた、巡査は其女教師に住所姓名を問ひ質して手帳に付けた。夕方飯塚町に宿り、園田重賢氏を訪問した

△八日(晴) 昨日迄は憲兵と刑事とが尾行したが、今日は正服巡査と刑事とが尾行する。穗波村の役場で、婦人が二人、鞭のまゝ昇降する板の間に正座して居るのを見た。是ではお代官の前に出頭すると同じ事だ。内野と山家との間に冷水峠(一名九州箱根)といふ二里餘の急坂があるので内野より一人の婦人を跡押しに雇ふたが、それでも足らずに、坂の中程から又一人の青年を雇ひ、三人してヤツトのことで峠に登つた。一人旅はこんな時大變困るのだ。日暮れて後、山家村に着き、木賃宿見た樣な處に泊つた。此六日間に書籍七十一册を賣つた。

▲横須賀平民舍演說會

四月三日東京にては同志諸君が紀念の大演說會を神田青年會館に開かるゝ筈にて、加納君と僕とが此日横須賀平民舍の催しにかゝる第一回公開演說會に應援する役目に廻つた、平民舍は横須賀と浦郷村の有志廿餘名にて組織せられた尤も鞏固な團體にて、其中堅が兵員諸君であると云ふに至つては明治政府は勿論、何人も一驚を喫することであらふ、場所は浦郷の、旭座であつたが、生憎雨天にて加かも豪雨で、聽衆僅か百二十餘名であつた、六時卅分和地小次郎君開會の辭を述べ、次に佐竹芝底君、平民舍を組織したる趣旨を述べ、櫻井仁八君は「戰爭と平民」てふ演題にて忌憚なく其平民に及ぼす利害を說き、加納豐君は(吾人の覺悟)日本の勞働者が意氣地なきは畢竟支那流の道德にて養成せられたる結果なりとて、思想の根底に說き及して拍手裡に降壇し、最後に余は「勞働問題とは何ぞや」の下に勞働問題の起因を概述して勞働者大同盟の必要を述べ之を解決するには社會主義によらざるべからずと說き九時卅分無事閉會したり、夫より宿舍にて有志の茶話會を開き、大に胸襟を開いて將來の運動方法等を語り更に一大飛躍を試みんとて諸氏の熱心は仲々に盛んなり、愉快な話で十二時過に漸く散會をした、社會主義は今日此頃の雨後の景色のやうに綠を增すばかりである(岡起實)

▲いろは倶樂部春季大會

四月三日の紀念を以て豫定の如く春季大會を後樂園觀騎亭に開く此の日雨天にして出席者比較的少數なりしも爐をも熔かし岩をも劈かん許りの熱心なる同志の會合によりて亭内歡喜の情を以て充たされき先づ開會の辭を述べ(S、Y、生)此の時平民社よりの祝電に接し同志の意氣一層昇れり次で迫害とは何ぞ(Y、O、生)我が社會主義と吾人の責任(宮城君)等の演說ありて後多くの討論且つは將來の方針等に就て熱議する所あり終に臨み和栗氏の天災てふ講談は流石の慷慨の士も笑聲を禁じ得ざりき閉會せしは日既に崦嵫に沒する頃

▲岡山いろは倶樂部觀櫻會

●時は四月二十日(木曜日)午後一時より●處は動山頂にて●銘々辨當持參の事●雨天ならば廿二日(土曜日)に延す●日々暖く春風袂を拂ふ心地よきの季、同志茲に於てか或は菫蒲公英と或は蝶々雲雀と共に世の不自然を論じ正道を歌はんとす●同志諸兄來れ、來りて共に半日の快を盡せよ

▲岐阜平民會例會

移轉騷ぎの爲め一日延ばして二日夜正檣社樓上に開會出席者は例に由て七名、岩藤生(歷史的大勢)の講話ありて後茶話に移り、直言讀者某は社會主義者となりし理由を述べ、中川氏は「今後は社會主義に關する疑問や所感をブツクに記し、平民會の席上にてソレを討究する事にしやう」てふ案を出した、雜談に時を過して全く散じたのは十二時であつた

●次回の平民會

△時 四月十五日(第三土曜日)午後正七時
△處 岐阜市西野町正檣社樓上
△費 金五錢
△岩藤生の講話(社會教育論)あり

▲横濱勞働者觀櫻會

△場所 横濱公園地內隅
△日時 本月十六日(日曜日)午後二時
△會費 無し、赤旗と辨當持參の事
△我はと思はん者は來り會せよ
△雨天なれば次の日曜日に延す
△東京の同志諸君奮て來援あれ

▲川越遊說 吉田民[illegible]

△七日午後、甲武鐵道の汽車中に檄をまきながら川越に行つた△先づ川越町の佐々木玉次郎君宅に談話會を開いた、佐々木君は星野君と共に活版工で、業務の傍らにも檄を配つたり、傳道用の直言を色々な人に讀ませたりして居る熱心な社會主義者である、社會主義が今日の如く隆盛になつたのは、此の如き無名の熱心家がある爲だと、敬服せざるを得なかつた、余は「勞働組合の話」と「所謂自由競爭論」に就て話した△八日は朝早くから、市中に檄をまきながら諸所を訪問した△尋常小學校では校長先生大に贊成してくれ、教員の中にも書物を買ふ人があつた△高等小學校では打つて變つて、取次の先生曰く「こんなものに用はない」△中學校に行つたれば「今忙がしくて會へぬ」といふから、暇になる迄待ちましやうとやつたら、イツの間にか二三の教員はツル〳〵とぬけ出してしまつた△最後に田井牧師を訪うたら、昨年堺兄等と共に羽村で演說した時の事、當市の人氣が一般に不活潑で、多くの人は決して公共事業などにたづさはらぬ事、當地に社會主義を擴張する名案など、懇々と數へられ、新聞や書籍も買つてくれた

▲神戸平民倶樂部第八例會

四月八日——一切平等絶對非戰主義の親玉お釋迦樣の誕生日——に第八例會を東出町一丁目小松天紐宅にて開く、大阪平民社の森近君の來席されたので、談話に花が咲いて、遂に翌朝の二時になりました、吾々同志のみの會合では仕方がないから、來月は公開演說會を催したいとの希望には皆々一致しました(野花)

▲社會主義演說會(東京)

四月五日午後七時より日本橋龜島町龍光亭に開會、加納氏と余が中止せられたるのみにて原子、岡、山田、齋藤、吉田、櫻井の諸氏何れも無事演了せり(山口生)

▲越後同志大會(長岡)

四月下旬、長岡附近に於て大會を催したいと思います御贊成の方は來二十日迄に御申込を乞ふ

△期日及會場 は協定の上一々御報知致ます
△發起人 曾根 小野塚孤島 内藤正一 長岡 小林スミレ 武藤野喚
△ダンミー役 長岡渡里町光德寺內、武藤芳韻

●火鞭會告白

(一)火鞭會は文學研究會也
(二)火鞭會は科學萬能主義に抗して、人類の迷妄を打破し、現代の文明を批評して、默移暗遷する時代の黑潮に棹す
(三)火鞭會は藝術の爲めに藝術をなさず、形式と技巧に束縛せられたる軟弱なる文學を排し、藝術の根底に横はれる、人生及び人道の光に觸れんとす
(四)火鞭會は批評を以て創作の誘導となすを彈劾し、炎々たる新生命を鼓吹せんとす

發起人 兒玉花外 中里介山 小野有香 原霞外 山田滴海 白柳秀湖 山口孤劍

▲本部は暫時神田三崎町三ノ一山城屋內に置く、入會希望者は右方に申込まるべし

●平民社より 枯川生

▲十一日午前八時、今日はドンヨリとして又雨になりそうだ。何だか社中が大變に寂しい。それも其答、傳道行商の諸君が皆居なくなつたのだもの。▲荒畑君は去五日、洋服に脚半、紺足袋に草鞋といふイデタチで平民社の表口から倘り靜かに赤い車を引きだした。深尾君と原子君とは昨十日、是も洋服いでたちで、社の裏口から車を引きだした。深尾君が引く、原子君が押す、路次の出口でスンデの事に車をひつくりかへそうとして、纔かに喰ひとめて進んで行つた。出發の時、社の二婦人は三君の爲に赤飯を炊いて其前途を祝した。

▲本號「さくら宗吾」の筆者「そろり」、實は明治新聞界の先輩たる富田一[illegible]菴君其人也。君年既に六十に近し而も其の一片の江戶子氣象は、深く我が社會主義運動に同情を寄せ、特に我等の爲に「宗吾」の一篇を書いて吳れた。我等は君の筆に依りて、又今更に宗吾の誠忠と意氣とに接するを得た事を感謝せねばならぬ。

▲編輯室の机の上の大花瓶に、(彼の黑木君の志で)此間からモク花が三べん變つた。最初は木蓮、次は彼岸櫻、今はボケの花(根じめには黃水仙と葉牡丹)。

▲去八日、新佛教の降誕會に招かれて、品川の妙華園に遊んだ。入口に彼岸櫻の大きな枝を活けて、其傍に大學生が一人立つて居て、其櫻の花を一輪づゝ鋏み切つて、來賓の徽章として我々に吳れた。其の自然に從つた趣きが、何となく新佛教諸同人の氣品を示して居る樣に感ぜられた。

▲文部省は女學生の間に社會主義の「害毒」が傳播するとて驚いて居るそうだが、吾黨の「婦人講演」「婦人傳道隊」「直言婦人號」などを見て、腰でも拔さにや善いが

▲此間の「婦人講演」に兵士が二人來て居たれば、どうして嗅ぎつけたものか、憲兵が跡から來て連れて行つた。先達ての觀櫻會の日にも、日比谷公園の前で兵士にチラシを配つたれば、憲兵が跡から來て取上げて行つた。アンマリお上にお手數をかけるので、お氣の毒でならぬ。

▲大阪平民社の前には正服巡査が二人も立番して、森近氏が外出すると必ず其跡をつけて行くそうだ。お手數のお氣の毒ついでに東京平民社にもせめて十人ばかり巡査憲兵を立番させて吳れないかなア。第一景氣がいゝぢやア無いか。

▲巣鴨でも別に變りはない樣子です。幸德君からの注文で此間玉篇を差入れました。殊に「顏字のついたのを」と云ふ事でしたから、我が秋水兄は獄中消閑を作詩の樂みに消して居る事と想像せられます。西川君はユーゴーのミゼラブルの下渡しを許されぬので不平の由。ミゼラブルは小說とは云へ、殆んど宗教的の籍書であるのに、それを許さぬとはアンマリひどいぢやないか。當局檢閱の任に在る教誨師諸君の御再考を願ひたいものだ。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

山梨中學校教諭
奥川鐘太郎君著

英語實力養成法

如何にして研究せば勞最も少くして最も多き效を收むや本書は最も懇切に研究法を說明したれば初學者は勿論苟も英語を學ばんとする人は一讀せば徒らに時間と勞力を費すことなく學力を進歩するの方針を立つるを得ん

定價郵稅共金二十錢

東京唱歌學校長
酒井勝軍氏著

英詩朗吟法

正價二十錢
郵稅二錢

○發行所　東京神田裏神保町　上田屋書店

東京唱歌學校長酒井勝軍君編輯註解

英語唱歌集

本書は英米諸國にて愛誦せらるゝ興味に富める詩歌に音譜註解、譯歌を附して專ら青年淑女の嗜好に資せんと欲して專ら有名なる時のみを蒐集せるものなれば英米に行はるゝ名歌曲は是に依りて其一斑を知るを得べし

(毎月一回十五日發行)

スヰートホーム

▲社會主義の婦人は讀まざるべからず

●すゐーとほーむは……我國唯一の良家庭雜誌なり
●すゐーとほーむは……家庭改良の卒先者なり
●すゐーとほーむは……淸新なる婦人の好讀物なり

記事

自由戀愛論　石川旭山、母の光　松岡文子、婦人の單位と社會制度　白柳秀湖、紫式部と淸少納言　井口龍娘、狂校書　吉田璣、歐米に於ける婦人の社會運動家　山口孤劍、家庭電話　唐辛

●すゐーとほーむは……青年婦人の交際機關なり
●すゐーとほーむは……女子學生の好侶伴なり
●すゐーとほーむは……敎育家も亦必讀の雜誌なり

▲社會主義の青年は讀まざるべからず

一部郵稅共金四錢　半年分廿二錢　一年分四十二錢　郵券代用一割增

發行所　東京本郷區千駄木町一　鳴潮社

大賣捌　東京堂　上田屋　中庸堂

山路愛山主筆

獨立評論

●毎月一回(三日)發行●

▲本月三日發行第三號目次左の如し▼

●三井王國と岩崎王國●現代思想史に於ける基督敎の位置(三)●其他評論、雜記等なり

發行所　東京府豐多摩郡澁谷村九百二番地　獨立評論社

府下一手販賣　寶文館

新公論

▲萬國大博覽會を東京に開くの議　之れに依て得る各種の利益(社論及び戸水博士外數氏)
▲一大人道館を建設すべし　佐治實然
▲米國文壇の心理學　金子喜一
▲文壇裸漢　嗟石
▲乙女つばき　嘲眠
▲日本人は羅甸人種なり(田口卯吉)
▲日本語はアリアン語なり(平井金三)
▲落機山邊の新日本　有露
▲結婚に必要なる條件　鶯伴
▲小說談　新天生
▲魔言錄　栗本鋤雲
▲雜誌の雜誌　毎號全國有力の雜誌中より其重なる思潮を紹介す社會の萬報本誌一册にて瞭然たり

●定價　一册金十三錢半年七十六錢一年一圓四十二錢郵稅共清韓以外海外は郵稅一册六錢
●賣捌　東京堂　上田屋　文明堂其他各雜誌書店

發行　東京本郷町五目四番地　新公論社

活版印刷

東京築地
株式會社

國光社

電話新橋二六九三番
特電話新橋八八番

主筆ドクトル富士川游

人性

第一巻第一號
(初號四月十日刊行)(毎月一回十日發行)

口繪　ドクトル、エ、グベルト氏

人性綱目

生物學　文明史　法學　敎育學　統計學　社會學　歷史的人類學　身體的人類學　刑事的人類學　比較人類學　國民心理學　社會心理學　人種心理學　衞生學　心理學　醫學　社會學　宗敎學

解剖　トーマス、ドガイゼル氏油繪(コロタイプ版)

▲人性……ドクトル富士川游
▲精神とは何ぞ……醫學博士片山國嘉
▲靈魂不滅歟將消滅歟……醫學博士大澤岳太郎
▲生活に關する當代の思潮……フェルウオルン
▲腦の構造と機能……醫學士三宅鑛一
▲心理學要略……ドクトル富士川游
▲體質改良社會政策……醫學博士大澤謙二
▲飲酒と精神病……醫學博士吳秀三
▲生活の研究●氣候と性格●男女性格の成生●思考を衡ること●夢の實驗的研究●日本の人種●人の壽命●手の人種的解剖●敎育の腦に及ぼす影響●情慾抑制の結果◉暖國の花柳病●飲酒と長壽●學校の改革●將來の宗敎●死と宗敎及哲學●日本花柳病豫防會設立●複合寫眞像(寫眞版)其他數件

正價　一册金十五錢郵稅金一錢●六册前金(郵稅共)金九十錢●十二册前金(郵稅共)金一圓七十錢

發兌元　東京日本橋區大傳馬鹽町　裳華房(電話浪花二三五三番)

辯護士　卜部喜太郎
東京市麹町區上六番町二番地　電話番町六二六番

外科皮膚病黴毒科的婦人科泌尿道器械的療法

診察　午前九時より十二時まで

東京　加藤病院

新橋際出雲橋　電話新橋一一〇三

院長　獨國醫學士　加藤時次郎

分院　横濱神奈川臺　火木土自午後三時至六時　小田原海岸　毎月曜午前中

辯護士　今村力三郎
東京市神田區今川小路二丁目十四番地　電話本局一九四〇番

麻病せうかち根治神劑

快淋丸

本劑は一等軍醫正草刈先生の處方に據り藥劑師田所紫松調製せし者にて輕きは一週間如何なる難症にても一ヶ月にて根治せしむる特効保證の神劑なり

價　七日分三十錢　藥　三日分十五錢●十五日分六十錢●一月分一圓

發賣　東京市中は即刻配達す●全國無料逓送す　神田區皆川町一番地　一志堂藥局　電話本局三千四十番

大和田建樹先生編
美文和歌

夕月夜

▲正價郵稅共三十八錢▲郵券代用無差支▼

待宵舍一門の歌文集なり或は春花の芳を競ふが如く或は秋草の野に咲き亂れたるが如し女學生諸君が作文詠歌の良參考たらん

天眞爛熳

▲正價金十三錢郵稅二錢▲郵券代用一割增▼

無邪氣なる小兒の言行を集めたるものなり怒れる人も泣ける人も之をよみてほゝえまぬはなかるべし

發行所　東京牛込區東五軒町　婦女新聞社

平民文庫出版廣告

●社會主義入門　平民社同人編　定價十錢
●消費組合の話　石川旭山著　定價十二錢
●地理上の瑞西　安部磯雄著　定價十五錢
●理想の國　社會民主黨建設者ラサール　幸德秋水著　定價十五錢
●土地國有論　西川光次郎著　定價十錢
●富の壓制　西川光次郎著　定價十錢
●マルクス　西川光次郎著　定價十錢
●經濟進化論　田添鐵二著　定價十五錢
●小說火の柱　木下尚江著　定價卅五錢
●小說良人の自白　木下尚江著　定價金卅五錢
(以上總べて郵稅を要せず)

五錢本之部　一部價五錢郵稅二錢　但二部以上郵稅不要

●百年後の新社會　堺枯川抄譯
●理想鄕　堺枯川抄譯
●ジョン・バーンス　西川光次郎著

發行所　東京市麹町區有樂町三丁目　平民社
取次所　大阪市中ノ島宗是町日本簽橋南詰　大阪平民社

辯護士　花井卓藏
東京市神田區錦町二丁目二番地　電話本局八八三番

男女生殖器病專門
内科外科

涙紅醫院

院長　醫士一瀬鷹一
東京神田連雀町十八　電車萬世橋下
診察無料藥術料任意

▲本紙定價　一部三錢五厘、廿部前金六十五錢　五十部前金一圓六十錢、郵稅不要
▲廣告料　一行十九字詰三十錢
▲注文　は總べて前金に限る
▲郵券代用　にて御送金の場合は必ず一割增として成るべく五厘の切手を用ひられたし

發行兼編輯人　原眞一郎
印刷人　山田金市郎
發行所　東京府荏原郡入新井村字新井宿二五五七番地　直行社

發賣所　東京市麹町區有樂町三丁目　平民社　電話(本)三二六二

印刷所　東京築地二丁目十一番地　株式會社國光社　電話新橋特八八、新橋六九三二番

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY